

世代を繋ぐ古関メロディー  
古関裕而氏の野球殿堂入りを  
実現する会 副会長

引地 洲夫 さんに聞きました！



🎯 野球殿堂入りを目指す思いをお聞かせください

古関裕而さんは、戦前・戦後と激動の時代の中、常に前向きで温かい曲を多く残され、野球界の盛り上がりを支えました。夏の甲子園の入場曲「栄冠は君に輝く」は、誰もが一度は耳にしたことがあるかと思えます。早稲田大学の「紺碧の空」、慶應義塾大学の「我ぞ覇者」、プロ野球巨人の「闘魂こめて」と阪神の「六甲おろし」など、ライバル関係にあるチームでもこだわらずに応援歌を残しています。野球界全体への貢献は計り知れず、野球殿堂入りにはふさわしいと思ひ、実現に向けて活動しています。

🎯 引地さんにとって古関メロディーとは？

「すべての人への応援歌」です。古関さんが作曲する応援歌には人を勇気づけ、背中を押してくれるようなパワーを感じます。連続テレビ小説「エール」は全ての世代に古関メロディーに触れるきっかけづくりをしてくれました。今は新型コロナウイルス感染症の影響で不自由な生活を強いられている状況ですが、古関メロディーが困難を乗り越える力を与えてくれると思います。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、古関さん作曲の「オリンピック讃歌」が演奏されるのが楽しみです。世界中の人々に古関メロディーの素晴らしさを感じてほしいですね。

また、福島の四季折々の情景を歌った福島ゆかりの曲が数多くあります。とてもやわらかく親しみやすい曲ばかりなので、お気に入りの1曲を探すのもいいかもしれません。古関メロディーは、音楽を通じてさまざまな世代、地域、国などを繋いでくれます。

🎯 今後の展望は？

古関メロディーによって勇気づけられ、元気な社会になってほしいですね。

「エール」によってもたらされた福島の盛り上がりも、来年度の野球殿堂入りに向けて、引き続き粘り強く活動していきます。会の活動を通して、より多くの人に古関メロディーの素晴らしさを知っていただきたいですね。

3月には古関裕而記念館がリニューアルオープンします。これまで以上に古関裕而さんの人柄や魅力が感じられることでしょうか。私自身もすごく楽しみです。

■古関裕而氏の野球殿堂入りを実現する会とは？

高校・大学・社会人野球やプロ球団の応援歌を作曲し、野球界の発展に貢献した古関さんの野球殿堂入り実現に向け、野球殿堂博物館への推薦書の提出や「古関裕而のまち・ふくしま」の情報発信を行う。高校の同窓会、マスコミなど20団体で構成され、読売巨人軍・阪神タイガースなど13団体が賛同団体として登録している。



We Love ♥ ふくしま！  
第35回「3.11を原点に新生ふくしまを」

もうすぐ大震災後10回目の3.11。亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表します。

最近では、人々の関心は新型コロナに集中していますが、大震災は、福島の人々の人生を変えた災害。決して新型コロナで埋没させてはなりません。10周年を迎えるにあたり、改めて振り返っていただきたい。大震災から何を学び、どう対応してきたのか？

誰もが痛感したのは、自分(たち)の身は自分(たち)で守ることが大切だということ。行政の防災対策は大震災以降も随分とレベルアップしてきました。それでも、行政だけでは市民を守り切れないのです。行政の強化には限界があることを再認識し、自分たちで備え行動する自助・共助の防災力を高めていただきたいと思います。

絆の大切さも、あたたかく私たちの心に浸み込みました。国内外からの多くの支援に支えられ、自分たちも励ましあい、繋がり行動することで、震災後の困難を乗り越えてきました。

- この経験は福島市民の大きな財産にしたいものです。
- 一方で、いわれなき風評や偏見差別に苦しみ、地域の中でも考えの違いから分断が生じました。同様のことは、コロナ禍の今、福島でも起きています。誹謗中傷は有害無益であることを改めて肝に銘じ、多少の違いは寛容な姿勢で接したいものです。
- そして、困難な時ほど自分たちを変え、高めるチャンスであり、グレードを上げないと困難を克服できないということも学びました。農産物の風評は、GAPという取り組みやよりおいしい農産物の生産、新しい販路拡大などで払拭を図り、まちづくりや観光も、オリンピックや朝ドラの舞台となることを活用して魅力アップに取り組んでいます。
- 大震災からのこうした経験は、新型コロナへの対応に通じるものです。その意味では、今後のふくしま創生やコロナ禍克服の原点は、3.11にあるのです。
- 4月からは、新型コロナのワクチン接種が実施され、コロナ禍からの脱却の光が見えてくるでしょう。福島市の新しい総合計画もスタートします。
- この3.11大震災からの経験を基盤としつつ新たな気持ちで、コロナ禍からの克服と新生ふくしまづくりに、力強く踏み出していきたいものです。

福島市長 木幡 浩